

# ウーラノス

2006 OCTOBER ウーラノス

## Vol 23

特集 NEW WAVE T.G.U.

- 裁判員制度が始まる — 1
- 歴史を伝え、今に導く — 3
- 学長室より — 4
- 協奏、そして共創へ — 5
- 学部より — 7
- 大学院より — 8
- 同窓生を訪ねて — 9
- 研究所・センターより — 10
- 入試部より — 10
- 就職部より — 11

特集 — 裁判員制度が始まる



# 裁判員制度が始まります

平成16年5月21日に成立した「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」により公布の日(平成16年5月28日)から5年以内に裁判員制度が実施されます。今回の特集ではその意義や対象事件、候補者の選出方法などを紹介しながら、裁判員制度を解説していきます。

東北学院大学法科大学院 法務研究科 教授

守屋 克彦

平成21年5月から、いよいよ裁判員制度による裁判が始まります。

裁判員制度とは私たち国民が裁判員として刑事裁判に参加し、被告人が有罪かどうか、有罪の場合どのような刑にするのかを裁判官と一緒に決める制度です。国民が刑事裁判に参加することにより裁判が身近で分かりやすいものとなり、司法に対する信頼の向上につながるかねらいます。国民が裁判に参加する制度はアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア等でも行われています。

裁判員裁判の対象となるのは【①法律で死刑又は無期の懲役・禁錮が定められている事件、②下限が1年以上の懲役・禁錮刑と定められている事件の中で、故意によって被害者を死亡させた事件という社会の関心を集めやすい重大な事件(資料1・2)】に限られています。

裁判員は、衆議院議員の選挙権を持っている人について、1年毎に無作為に抽出して作られる裁判員候補者名簿から事件毎に抽選で選ばれることとなりますので、裁判関係者などの例外を除くと誰でも裁判員に選任される機会があることとなります(資料3)。

裁判員裁判は、職業裁判官3名、裁判員6名の合計9名で審理を行いますが、例外的に被告人が事実を認めていて関係者にも異議がないような事件では、裁判官1名と裁判員4名で審理を行う場合もあります。

裁判員が加わる審理では、審理を進める前提となる法令の解釈や訴訟手続に関する分野は裁判官が決めますが、有罪か無罪かという事実の認定、どのような法令を適用するか、また量刑をどうするかなど、裁判の本質にあたる部分は裁判官と裁判員を含めた全員(合議体)で協議を行い、裁判官及び



裁判員制度や現在の刑事裁判の手続きが分かりやすく説明された「裁判員制度ブックレット」が、最高裁判所より発行されています。(2005年10月発行：全国の裁判所で無料配布)

裁判員のそれぞれ1人以上が入っている過半数の意見によって結論を定めていくことになります。裁判員も証人に対する尋問や被告人に対する質問を行うこともでき、全員での評議に加わり意見を交換し、自分の考えに従って結論に参加することになりますので、その点では裁判官と全く変わりありません。評議の結果評決内容が決まりますと、法廷で裁判長が判決を宣告することになり、裁判員としての役割は、判決の宣告により終了します。(対象事件開廷回数例：資料4)。

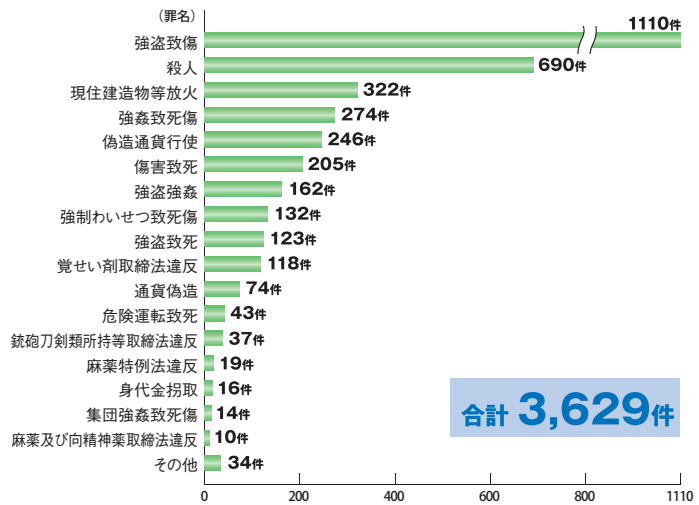
日本では一度、大正時代に陪審制度が設けられましたが、第二次大戦中に中止され、長く職業裁判官だけの裁判が行われてきました。長くこのような制度に馴れてきたためか、最近の世論調査でも素人に裁判ができるのかという不安や裁判員の仕事が生活の負担になるなど消極的な意見が多いように伝えられています。

しかし、民主主義社会の下では立法・行政と同じく司法にも主権者である国民が関与し、意見を反映する途を設ける方が制度に対する信頼を得られると考えるためか、世界では多くの国で国民が何らかの形で裁判に関与する制度を設けています。

裁判所・検察庁・弁護士会などの関係者は、新たな主役として国民が裁判に関与することになる事態を迎え、これまで全く法律や裁判に関係がなかった人でも裁判員の任務を十分に果たせるように、分かりやすく国民に負担にならない裁判手続を実現すべく、模擬裁判や広報活動などを繰り返しながら工夫を重ねています。

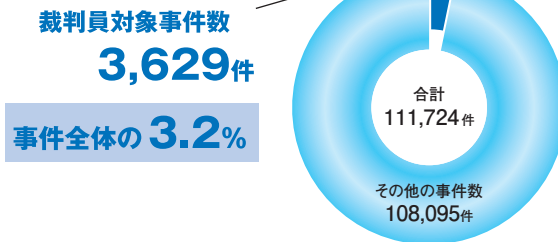
主役を迎える舞台が、果たして上手に準備され、国民に親しまれる裁判員制度が生まれるかどうか、成り行きに注目したいと思います。

### 資料(1) 罪名別の裁判員制度対象事件数



※平成17年に地方裁判所で受理した事件の概数をもとにしています。

### 資料(2) 裁判員制度対象事件の割合



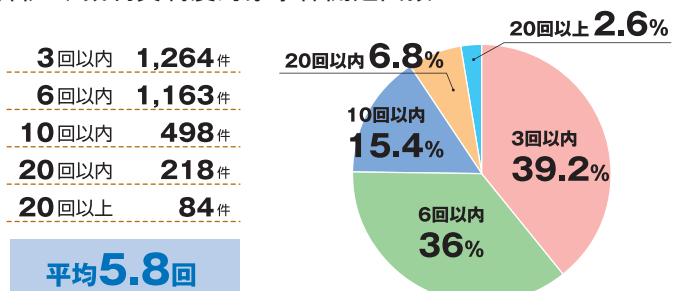
※平成17年に地方裁判所で受理した事件の概数をもとにしています。

### 資料(3) 有権者に占める裁判員候補者数

裁判所	対象事件数	裁判員候補者数 (1事件50～100人と仮定)	有権者数 (平成17年9月11日現在)	候補者の割合
仙台	63	3,150～6,300	1,895,838	0.17%～0.33%
福島	50	2,500～5,000	1,675,259	0.15%～0.30%
山形	21	1,050～2,100	984,809	0.11%～0.21%
盛岡	21	1,050～2,100	1,130,065	0.09%～0.19%
秋田	15	750～1,500	959,970	0.08%～0.16%
青森	27	1,350～2,700	1,189,643	0.11%～0.23%
東京	487	24,350～48,700	10,242,560	0.24%～0.48%

※平成17年に地方裁判所で受理した事件の概数をもとに想定・試算しています。

### 資料(4) 裁判員制度対象事件開廷回数



※平成17年に地方裁判所で受理した事件の概数をもとにしています。

(出典/資料1～4:最高裁判所webサイト)

# 杉山元治郎の故郷(2)

経済学部教授 岩本 由輝

泉佐野市下瓦屋の杉山元治郎さんのお母さんの実家である新谷さんのお宅に伺うと、突然の訪問にもかかわらず、杉山さんのいとこのご子息の奥さんが応対してくださり、「子供のいない杉山家代々のお墓はこれからもうちで守ります」といわれ、杉山さんのすぐ下の弟で、杉山さんの代議士時代の秘書を務めた故杉山政雄さんの奥さんである八千代さんと杉山さんの末弟の基さんに早速連絡を取り、私たちが調査に訪れる段取りをつけてくださいました。それから下瓦屋で杉山さんをよく知っている石垣さんはじめ数軒のお宅へも案内して頂きました。石垣さんのおじいさんからは、戦後、杉山さんが大阪府知事選挙に出馬して以来、中選挙区当時の大阪5区の衆議院議員選挙のときに、いつも選挙用トラックを運転していたことなど、いろいろなエピソードをうかがいました。「この頃の

選挙にはトラックは使わなくなったなあ」といって往時を懐かしんでおられたのが印象的でした。

東大阪市に井上八千代さんを訪ねると、喜んで迎えてくださいましたが、ご主人の政雄さんが亡くなったあと、大阪人権博物館(リバティおおさか)からの依頼で、杉山さんの関係資料はほとんど寄付してしまっただので、そちらでご覧くださいといいながら、それでも何かのお役に立てばと、数点の杉山さんの著書と何枚かの写真を本学に寄付していただきました。そして、杉山さんは東京の青山墓地内にある「無名戦士の墓」に合葬されているとのことでした。また、奈良市の杉山基さんをお訪ねしたところ、基さんは直接お会いできる体調ではなかったのですが、奥さまを介して「東北学院で必要な資料はお持ちください」ということで、ダンボール6個分の資料を頂くことができ

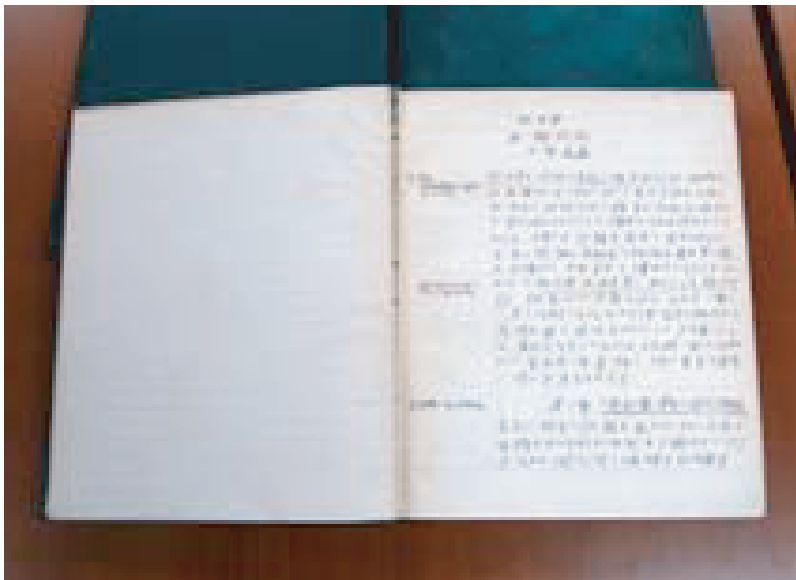
ました。この結果、本学は、杉山さん関係の資料所蔵という点で、法政大学大原社会問題研究所、大阪人権博物館と並ぶ三本の指に入るコレクションを誇るできるようになりました。

大阪人権博物館を訪れましたところ、杉山さん関係の資料は整理中とのことでしたが、私たちにコピーをとることを許してくださいました。そのなかに杉山さんの本学在学中の1906年から1909年までの「日記」がありました。これは当時の本学神学部の生徒の日常を知るうえで貴重なもので、本学所蔵の杉山さんの「受講ノート」とあわせると、その頃の本学のキリスト教教育の状況を知ることが可能になると考えます。

この間、というよりも泉佐野市での調査を始める以前に、神奈川県相模原市在住の沼田さんという杉山さんの今でいえば政策秘書であった方のご子息から、お父さんの遺品として保存されてあった杉山さん関係の貴重な資料を寄付して頂いたことも記しておかなければなりません。

私たちが学校法人東北学院の委嘱を受けて進めております東北学院創立120周年記念事業の一環としての「大正デモクラシーと東北学院」にかかわる資料は、経済学部の仁昌寺先生が担当している鈴木義男さん関係のものとおわせて着々と集積され、図録作成に向けて鋭意作業が続けられております。

今回は浄土真宗の家庭で育った杉山さんがどのような経緯でキリスト教に接触し、受洗するにいたったかを見てまいりましょう。(次号へ続く)



杉山さんの本学における受講ノート～開いているページはシュネーター院長の「教会学」の講義冒頭部分～

# From the President.

学長室より



## 「艱難は忍耐を、 忍耐は練達を、 練達は希望を」

学長 ほし みや のぞむ 星宮 望

表題の言葉は、『新約聖書』中の「ローマの信徒への手紙」第5章にあるパウロの言葉として有名なものです。パウロは、イエス・キリストの福音を述べ伝えるときに遭遇する種々の艱難に対しての励ましの言葉として述べていることが原点です。しかしこの言葉は、我々の人生においても力強い励ましの言葉として大きな意味を持っていると言ってよいでしょう。そして、私の若い頃からの座右の銘の言葉でもあります。『ウーラノス』(vol.16,2004/May)で、私のこれまでの研究の概要を紹介させていただきました。その中で生体電子工学に関する新しい研究の推進にあたっていくつかの困難に遭遇したことに簡単に触れましたが、それらを克服する努力の中でもこの言葉に大きく力づけられましたのでその一部について述べたいと思います。

今から35年以上前、まだ東北大学助手をしていた頃に、ヒトの神経系を電気刺激することによって失われた機能を回復・補助することを試みました。しかし、「そのような研究は実現できる

はずはない」、あるいは「無謀である」などの批判を多数受けました。また、ある程度研究が進展して学会で発表してもほとんど無視されましたし、文部省や厚生省の科学研究費を申請してもほとんど採用されませんでした。そしてこのようなことが10年ほど続きました。なげなしの研究費を工面して実験を続けて、それらの研究成果を国内の学会や国際学会へ学術論文として投稿する努力を重ねました。その内に、米国やユーゴスラビアなどの研究者が、ほぼ同じ時期に、同様の考え方で独立に研究していたことがわかってきて、ようやく我々の研究の意味を少しずつ理解していただけるようになりました。そして、1982年に北海道大学教授に招聘されてからは、経常的に大きな研究費を使うことができるようになって、これらの研究を推進することができるようになりました。すなわち、生体の神経・筋系を電子的に制御・補助する研究(機能的電気刺激、FES)を研究室の研究テーマの中心に据えることにし、誰からも邪魔をされることなく思う存分

研究を推進することができました。そして、基礎的研究・臨床応用研究を大きく進展させることができました。さらに、当時の新技術開発事業団からの研究開発費として約1億円の補助を受けて、メーカーとの共同研究を経て、医療機器としての製品を開発することにも成功しました。これは、薬事審議会の審査を経て、臨床的に使用することが許可されています。

ここで、表記の座右の銘に戻りたいと思います。ほとんどの研究者から馬鹿にされたり、相手にされなかった時期には艱難を乗り越える努力をして、そこで何とか忍耐を学び、その忍耐から少しずつ練達の技を磨くことができたように思います。そして、多くの共同研究者の協力を得て、ようやく当初の目的・希望を達成することができました。『聖書』に記されたパウロの艱難には比すことができませんが、我々の日常の活動においても、この御言葉をなお座右の銘にして今後も働いていきたいと願っております。

# 協奏

そして

# 共創へ

## 24年ぶりの快挙 硬式野球部 全国大会出場! 神宮の森に応援団旗たなびく!!

2006年6月6日、本学硬式野球部が神宮球場で行われた第55回全日本大学野球選手権大会への出場を果たしました。同大会出場は実に33季、24年ぶりのことです。

選手権大会出場のためのノウハウを有する教職員もおらず、手探りの応援計画のスタートでしたが、幸い神宮の常連校であり総合定期戦で友情を育ててきた青山学院大学からの協力を得て総勢500名におよぶ応援団を送り出すことができました。

深紅の大応援団旗を先頭に在京の同窓生や吹奏楽・チアリーディング・教職員の声援を背に受けて、神宮球場での待望の第一戦、九州代表の九州東海大との試合に臨みました。ソロホームランを含む攻撃で2回までに3対0とリードをしましたが、敵の反撃に遭いリードを許してしまいました。しかし本学は粘り強く試合を進め、同点、更に逆転をし、9回表を1点のリードで迎えましたが、9回裏にまさかの逆転を喫し初戦突破はならず、神宮の森に喜びの校歌を響かせることはできませんでした。



好投を見せた岸投手



大歓声の本学応援団

## 教育の現場から

同窓生インタビュー



秋田市立秋田商業高等学校 教頭

む とう し ろ う  
**武藤 四郎氏**

プロフィール

1971(昭和46)年 秋田市立秋田商業高等学校卒業後、就職し、1年後の1972(昭和47)年4月東北学院大学経済学部商学科入学、1975(昭和50)年卒業、その後高等学校教諭となる。

## 無知から無知へ 未知から未知へ

### 無知から無知へ導く、教育者の仕事

私が教師の道を志すきっかけとなったのは、東北学院大学で教育学を教えていただいた三浦典郎先生との出会いでした。先生の「教師の本分は『分からないことから分からないこと』へ導くことである」という言葉は、今でも座右の銘となっています。つまりそれは、ひとつのことが分かるということは、次の分からないことへのステップだということ。『無知から無知』へのつながりは、常に自分を挑戦へと導き、成長させてくれました。

# 約4,300人が東北学院大学を体感 —オープンキャンパスを開催—



8月5日(土)、6日(日)の両日に『オープンキャンパス』が開催されました。会場となった泉キャンパスと多賀城キャンパスには、約4,300人ももの高校生や一般の方々が訪れ、キャンパス内を自由に見学したり、模擬授業に参加するなど、“大学生”を体験しました。

メイン会場となった泉キャンパスでは、入試制度を説明する『入試説明会』や各学科の教育内容を説明する『学科ガイダンス』、授業を体験する『模擬授業』などが行われました。

250人収容の教室が人で溢れ、立ち見まで出た経営学科の模擬授業『企業の人材育成について』では、「高校と大学の違いや、大学は人より秀でたものを身に付けることができる場所である」ことなどが、高校生に人気の漫画を例にとって語られ、社会で求められる人材についての講義

が行われました。熱のこもった先生の話に、見学していた高校生は「自分が持っていた大学教授のイメージが変わりました。フレンドリーと言ってもいいくらい親しみやすそう…。授業も、とても分かりやすくておもしろく、引きつけられました」(高校2年男子/宮城県)と感想を話してくれました。また、情報科学科では、生物学・生命科学(「いのちの仕組み」と「いのちの本質と倫理」を考察)をカエルの生体解剖を通して知ってもらおうと実験が公開されました。

—「コンピュータに興味があって情報科学科の見学に来たのですが、思っていたよりも領域の広い勉強ができることに驚きました。将来はIT関連の仕事に就きたいのですが、興味のわくものが他にも出てきそうですね」(高校3年女子/宮城県)—

昨年度設置されたばかりの地域構想学科では、在学生が中心となって学科ガイダンスを行い、活気あふれる中で高校生にアドバイスを送っていました。

また、礼拝堂では3回にわたって「パイプオルガン演奏」が行われ、その荘厳な響きに、来学者は聞き入っていました。

本学のオープンキャンパスは、年々充実度が高くなり、模擬授業も個性的で高校生の興味を引くものとなってきています。それは、言い換えれば現代社会の興味に応えうものであるということです。オープンキャンパスは、高校生だけでなく、広く一般の方にも公開しておりますので、ご興味のおありの方は、是非一度お越しください。

当時は先生の教えに影響され、教育で日本を変えてやろうなどと、壮大な夢を抱いたものです。

## 未知から未知へ、行き先は誰も知らない

卒業式の時に記念講演にいらっしゃった東京神学大学の佐藤敏夫学長さんのお話が忘れられませんね。テーマは『行き先を知らないで』というもので、「諸君の未来は誰も分からない、ただ神はずっとともにいます」という内容でした。この言葉は、4年間の総まとめとして大変印象に残っています。今教えている生徒にも「5年後、10年後のことは分からないが、だからこそ今、勉強しなければならないんだ」ということを常に伝えています。分からないという『未知』に取り組みながら『未知』に備える、そこには『未知から未知』へのつながりがあるのです。


## 少子化だからこそ求められる、開かれた大学

秋田県の高中生にとって東北学院大学は、学んでみたい

と憧れる大学のひとつです。しかし、東北の私学の中ではトップクラスの偏差値であることから、あきらめてしまう生徒も少なくありません。現在、少子化の波で大学も厳しい時代を迎えていることと思います。私が母校に望むことは、広い意味で地域貢献に向かう大学であって欲しいということです。すでにオープンカレッジなどは開催されている訳ですが、もっと広く学問の機会を提供して欲しいと思います。例えば、仙台だけでなく東北地方を巡回し、何コースかを選択して受講できるシステムなどにすれば、さらに受講層も厚くなるでしょう。

また、オープンキャンパスを東北各地で行うというのも、是非取り組んで欲しいことです。そうすることで、東北学院大学が高校生にとって身近な存在となり、あきらめずに挑戦する気持ちが高まるのではないかと考えています。

今後の開かれた大学としての東北学院大学の取り組みに期待しています。



# 経済学部

## 経済学部の将来構想

新聞報道によりますと、平成18年度において全国の大学550校のうち、定員割れは225校、定員割れ率40.4%になっています。しかし、入学定員3,000人以上のマンモス大学(23校)だけで見ると、志願者数は5万人も増加しています。全体の約4%のマンモス大学が志願者全体の45%を占める状況です。地方の私大が不振であることが明らかになりました。(7月24日付『毎日新聞』)

本学ではどうかといいますと、平成18年度の前期日程だけでみますと、定員1,158人、志願者7,408人で6.4倍という状況です。経済学部だけでみますと、前期日程の定員は424人、志願者は3,002人で7.1倍でした。関東や関西のマンモス大学と比べてもひけをとらない状況です。しかし、時系列で本学への志願者数をみますと、明らかに減少しています。例えば、経済学科の一般入試(前期日程)の志願者数は、平成11年度(昼)2,724人、昼夜開講制のスタートした12年度(昼)2,428人、そして18年度(昼)1,719人と減少傾向にあります。

東北学院は、明治19年に2人の教師と6人の生徒で始まり、今年120年を迎えました。長い歴史と伝統をもった本学は、その間に世の光、地の塩となったすばらしい卒業生を輩出してきました。現在本学にいる私たちもそれらをきちんと受け継ぎ、次の時代の新しい人たちにきちんと渡していく責務があります。

平成18年3月、経済学部長から「経済学部の将来構想について」という文書と、それを検討する組織として「経済学部将来構想委員会」を設置するという提案が示されました。

経済学部では、平成12年度からカリキュラムの変更を伴った昼夜開講制を導入し、平成13年度には商学科を経営学科と名称を変更、さらに平成18年度には経営学科において新カリキュラムを実施してきました。このように時代の変化に合わせた学部改革を行ってきましたが、先に述べた志願者の一層の減少や経済学部を取り巻く教育環境等を考慮しますと、経済学部の改革が再び必要であると考えられ、時代の要請に応えるべく新しい取り組みを始めようと一歩踏み出した所です。





文学研究科



韓国国立忠南大学校との学术交流

本年5月4日(木)、韓国中部のテジョン(大田)広域市にあります国立忠南大学校百済研究所で、本学のオープンリサーチセンター整備事業との共催で「第55回百済公開講座」が開催されました。この「公開講座」は専門家向けのもので、日本でいえばシンポジウム形式のものですが、そこで文学研究科アジア文化史専攻の辻秀人・佐川正敏・熊谷公男の3先生が、それぞれ古代の日本と百済の交流に関わりのある内容の研究報告を行いました。報告のテーマは、辻先生が「朝鮮半島西南部で10数基確認された前方後円墳について」、佐川先生が「東アジア世界における古代寺院木塔の建築技法について」、熊谷先生が「5世紀の倭・百済関係について」でした。報告には、それぞれ討論者(コメンテーター)が付き、白熱した討論が行われました。

歴史・考古学に関する日本と韓国の学界の見解は、一昔前に比べますとだいぶ接近してきたようですが、まだまだ一致していないところも少なくありません。今回の「百済公開講座」でも見解の相違、そしてその根底にある歴史認識、の相違を痛感したところもありますが、もう一方では同じ土俵の上で議論できるようになったことも事実です。その意味では、双方の研究の方法や見解は確実に接近してきています。

今回の韓国での研究報告の何よりの収穫は、韓国の研究者と直に話をすることができたということです。とくに講座修了後に開催された懇親会では、お互いの考えを率直に話し合い、活字の上だけではわからない研究者の思いも知ることができました。これを機に、韓国との学术交流を今後も続けていきたいと思っております。

学生街を歩く

Quartier Latin T.G.U.

イタリアンデザインを感じるカフェ

ゾーナ

zo-na



東北学院大学泉キャンパス近く、国道4号線沿いにある「ゾーナ」は、Fiat500・vespaショップとカフェが併設されたお店。1Fにはパソコンが並び、1ドリンクをオーダーすれば2~3時間インターネットを楽しむことができます。2Fはプライトカラーの個性的な椅子やテーブルが並ぶカフェ&ダイニングスペース。自家製のドルチェやパスタ、ピザなどイタリアンメニューが充実しています。一面ガラス張りの明るい店内には、1970年頃のFiat500やベスパが並び、遊び心たっぷりのイタリアンデザインを感じることができます。「ゾーナ」は、カフェでありながら、東北唯一のFiat500輸入販売店でもあり、休日には東北全域からFiat500ファンが訪れるそうです。2Fのカフェで、お気に入りの椅子に座り、エスプレッソを飲みながら、1Fに併設されている「イギリス館II」の家具や、北欧・英国のミッドセンチュリーの照明などを眺めるのも楽しみの一つです。

「zo-na」

OPEN 12:00~21:00

休日 毎週水曜(祝日は営業)・年末年始・夏期休業あり

駐車場 20台

宮城県仙台市泉区市名坂字寺下62-1

TEL:022-375-0119





## 中・高・大一貫教育で得た 人と人との繋がり大切さ それが私の財産です

株式会社セノン代表取締役社長

いりまがわ ゆきみち

入間川 幸道 氏

1968(昭和43)年 東北学院中学校入学、1971(昭和46)年 東北学院高等学校入学、1974(昭和49)年 東北学院大学工学部電気工学科入学、1978(昭和53)年卒業、同年4月 株式会社セノン入社(旧社名 極東警備保障株式会社) \*1988(昭和63)年社名変更  
1988(昭和63)年6月 取締役就任、2004(平成16)年6月 代表取締役社長に就任 現在に至る

株式会社セノンは、警備業を中心とした総合サービスを全国展開にて提供する大手企業。特に航空保安検査業務、空港消防業務などの空港保安では国内トップ。

至っています。「水と安全はタダ」という日本の安全神話が過去のものとなった現代社会において、安全産業は社会に欠かせないものとなっています。また、当社は高度なセキュリティ技術を要求される特定施設の警備を始め、特に航空保安検査業務、空港消防業務においては国内トップのシェアを持ち、空港保安などの業務を合わせて、全国の半数を超える空港でサービスを提供しております。今後も、当社の「企業理念」を根幹とし、変わりゆく時代にもふさわしいセノンの姿を追求していきたいと考えています。そのためには社員の教育やモチベーションを高めることに一層注力し、現場の社員がお客様に信頼され、その信頼関係の中で新しいサービスを生み出す企業でありたいと考えています。

### 本学に入学したきっかけは何ですかー

一言で言って「親の勧め」。従兄弟も通学しており「中・高・大の一貫教育が魅力」だったからでしょう。中・高・大の長い間を同期の友人や先輩・後輩、先生方と深い関わりが持てる一貫教育は、やはり素晴らしい教育システムだと思います。親、兄弟、他人との関わりが希薄になっている現代においては、なおのことですね。

### 大学4年間で一番印象に残っていることはー

学業はさて置き、中学から通学していたので、4年間の思い出だけでなく自分には10年間の思い出があります。先生と師弟の枠を越えた長いお付き合いができるのも「一貫校」の魅力として残ります。お陰で子どもから大人になる成長過程の中で、多くの教を請うことができました。毎朝欠かさず行われる礼拝とその時に歌う賛美歌は忘れ得ぬものです。学院の建学の精神のシンボル、3L(LIFE LIGHT LOVE)は決して忘れることのない標語であり、現在の自分の道標でもあります。

### 現在の仕事に就いたきっかけは何ですかー

「社会の役に立つ仕事を」と考えていたときに、たまたま高校・大学の先輩が当社にいて、その推薦を得て入社しました。

### 現在の仕事内容についてお聞かせくださいー

社長に就任して丸2年が経ち、3年目に入りますが、まだまだこれから勝負の時と考えています。当社は創業(1969年/昭和44年)以来、「誠実」「厳正」「協和」の精神を社是として、社会の安寧・秩序の維持と企業の近代化推進に寄与することを企業理念として、37年間警備業務を中心とした業務を官公庁・民間企業において、全国展開してきました。当社は警備会社としてスタートし、警備業務の受託先様の様々なご要望にお応えしていくことで、ビルメンテナンス業務や車両運行管理業務などの事業も増え、総合サービス企業として全国展開するまでに発展し、現在に

### 大学での4年間は現在の仕事に どう活かされていますかー

学校は学業だけでなく社会人となる基礎的なことも学ぶところ。特に部活動(空手道部)で経験した、OBや先輩との縦のつながりや同級生との横のつながりの大切さは社会人として大いに役立っています。

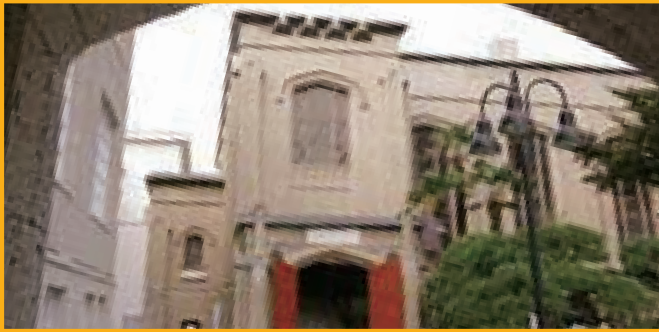
### 後輩たちへのメッセージをお願いしますー

学生生活はそれなりに楽しいもの。我々の時代は何ら目的がなくとも、この4年間で将来の目的を見つけられればよかったが、これからの時代は違います。就職戦線においても、何を自分の目標において学生生活を送ってきたかが、問われる時代となりました。景気は確かに底を打ち上昇し始め、それと共に企業の募集活動も活発になってきています。しかしながら、各企業は目的を持った社員しか採用しなくなり、過去の苦い経験から派遣やパートを多用しているというのが現状です。

学生諸君はこの4年間、将来を見据えて「目標」を持って充実した学生生活を有意義にエンジョイして欲しいと思います。



## 研究所・センターより Institute for Research and Center info.



### 研究フォーラム 「黙示文学と黙示思想」開催

キリスト教文化研究所

キリスト教文化研究所は、キリスト教関係の資料の収集とキリスト教神学研究を目的とする研究機関です。研究の成果は、紀要の刊行、公開講演会、キリスト教文化講座を通して発表しています。本研究所のユニークな活動としては、研究フォーラムの開催が挙げられます。この活動は、専門分化した学問状況の中で分野を異にする学内外の研究者が専門を超えて交流し意見を交わす場として、2001年から行われ、本年で6回目を迎えました。昨年は、カトリック教会とプロテスタント教会の和解の里程標として高く評価されている『義認についての共同宣言』をとりあげ、プロテスタントとカトリックの両方の学者を迎え、双方の立場からの意見を相互に聞き合う場を持ちました。

本年の題目は「黙示文学と黙示思想」であり、6月30日(金)15:00-17:00に8号館第2会議室において開催されました。黙示文学(もくしぶんがく)とは、旧約後期文書に始まり、古代ユダヤ教、初期キリスト教文書に展開された特異な文学様式の一つで、世の終わりについて神の特別な黙示・啓示を受けた著者が、それを物語として語るスタイルをとります。旧約聖書ではハガイ書やゼカリヤ書やダニエル書に黙示文学的要素が見られ、中間時代のユダヤ教文書において大きく発展しました。新約聖書では、黙示録がこの文学様式で書かれています。本年の研究フォーラムでは、旧約聖書と新約聖書の両方をまたぐ重要問題である黙示の問題を、旧約聖書学と新約聖書学両方の視点から論じ、その本質と社会的機能について語り合いました。



キリスト教文化研究所  
TEL.022-264-6401 FAX.022-264-6530

## 入試部より Admissions info



### 仙台10大学共催 「(入試から就職までの) まるごと説明会」

入試部は、東北地方を中心とした数多くの進学相談会、本学主催の進学指導者懇談会、個々の高校における入試説明会、高校を訪問しての進路指導者との入試説明・懇談など、受験生に正確な情報を伝え、適切なアドバイスを与えることに努めています。今年度は、新しい試みとして、仙台にある10大学の入試事務担当者が企画した「(入試から就職までの)まるごと説明会」を仙台ガーデンパレスにおいて〈7月25日(火)〉実施しました。多くの高校生と保護者が会場を訪れ、熱心な相談が行われました。

今年度のAO入試が始まりました。A日程第I期、第II期の受験者は以下の通りでした。

平成19年度AO入試 A日程 I期、II期 第1次選抜試験受験者数一覧

学部	学科	第I期	第II期
文学部	英文(昼)	36	26
	英文(夜)	0	0
	キリスト教	1	0
	歴史	22	21
	小計	59	47
経済学部	経済(昼)	59	30
	経済(夜)	0	2
	経営(昼)	54	31
	経営(夜)	1	0
	小計	114	63
法学部	法律	27	23
工学部	機械知能	32	15
	電気情報	29	8
	電子	15	2
	環境建設	29	7
	小計	105	32
教養学部	人間科学	17	9
	言語文化	19	9
	情報科学	10	4
	地域構想	26	14
	小計	72	36
合計		377	201



入試部  
TEL.022-264-6455

## 平成18年度就職状況と 就職支援について

企業の採用意欲は、景気の回復、団塊世代の問題、人事の空洞化の調整などによって、昨年度に増して高まっています。本学に対する求人数も、昨年1年間の受付数を6月初めに上回りました。このように、長かった就職氷河期が一転して売り手市場に変わりつつあると表面的には見うけられますが、しかし、実際の学生の内定状況は、一人で幾つもの企業の内定を得られる学生と全く内定の得られない学生の二極化が、昨年度以上に進むのではないかと懸念されます。

そこで、4年生の7月現在の就職活動の状況を分析しますと、①しっかりと志望を固め、早期から準備し本命の内定を得ている、②内定を数社保持しているが、どこの企業にするか未だ決めていない、③現在は、公務員あるいは教員または進学を考えていて、その結果が出てから企業に変更するか来年再度初心を貫くかを考える、④就職活動の壁にぶつかり冷めてしまい、内定もなく諦めている、⑤初めから全く活動をしていないという5つのグループに分けることができます。①のグループの学生はすでに大学に内定先を報告しておりますが、②～⑤は大学に全く報告に来ておりません。

就職部では、今後とも4年生に対する就職相談、求人情報の提供などの支援を、とりわけ④と⑤の学生を念頭に継続的に行ってまいります。学生自身の方も、チャンスを積極的に掴む姿勢が問われています。

また10月以降は、1年生から3年生に対してもキャリア支援の行事が数多く予定されております。より積極的な参加を呼びかけることにしています。就職部は、学生がこれらの行事の一つひとつ着実に積み重ねることを願い、「先ず一步、結果は後から就いてくる」をスローガンに指導支援を行っております。

土樋キャンパス就職課  
TEL.022-264-6481 FAX.022-264-6486  
多賀城キャンパス就職係  
TEL.022-368-1101 FAX.022-368-1118  
泉キャンパス就職係  
TEL.022-375-1161 FAX.022-375-1534



OUPANOSは「天」を意味するギリシャ語です。使徒パウロは、人間の平等を「彼らにもあなたがたにも同じ主人が天におられ、人を分け隔てなさないのです」(エフェソの信徒への手紙6章9節)と説明しています。この箇所にも οὐρανός の語が用いられています。

### 教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、右記事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。詳しくは、東北学院法人事務局財務部会計課までお問い合わせください。

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1  
TEL.022-264-6467  
FAX.022-264-6510

#### 【募金目標額20億円】

- 1.東北学院大学キャンパス整備
- 2.東北学院中学校高等学校校舎建設
- 3.東北学院榴ヶ岡高等学校校体育館  
および管理棟建設
- 4.東北学院会館(仮称)建設
- 5.東北学院育英奨学基金の増額

#### 東北学院大学

##### ■土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
法務研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、  
夜間主コース  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

##### ■多賀城キャンパス

大学院：工学研究科  
学 部：工学部  
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

##### ■泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科  
学 部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、  
教養学部  
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

#### 東北学院中学校・東北学院高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1  
TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

#### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

#### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



### ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.23

#### 広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	高橋 征士
編集長	経済学部教授	原田 善教
委員	宗教学部長	佐々木哲夫
	文学部教授	楠 義彦
	経済学部助教授	白鳥 圭志
	法学部教授	塩屋 保
	工学部教授	淡野 照義
	教養学部教授	木戸 眞美
	総務部次長	鈴木 孝郎
	総務部総務課長補佐	斎藤 信二
	総務部総務課係長	山本 隆夫
	総務部総務課	薬科 明宏

東北学院大学広報誌『OUPANOS(ウーラノス)』に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

#### 【本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、5月15日・10月20日・2月20日です。

発行日 平成18(2006)年10月20日  
編 集 東北学院大学 広報誌編集委員会  
発 行 東北学院大学  
〒980-8511  
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6412 FAX.022-264-3030  
URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>  
E-mail [tgsomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:tgsomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)  
印 刷 ㈱エイエイビー



古紙配合率100%再生紙を使用しています

この印刷物は環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています